

はじめに

本ファイルは Hohner Chromonica270(260)修理に関して得られる種々の Web 情報及び Hohner Harmonica ServiceKit の説明書等を参考にしながら筆者が実際に行った修理方法をまとめたものです。

本体カバー、マウスピース及びスライドレバーの取り外し方はChromonicaを吹かれる方なら理解していると思われるので、説明していません。

2005 年 1 月 25 日

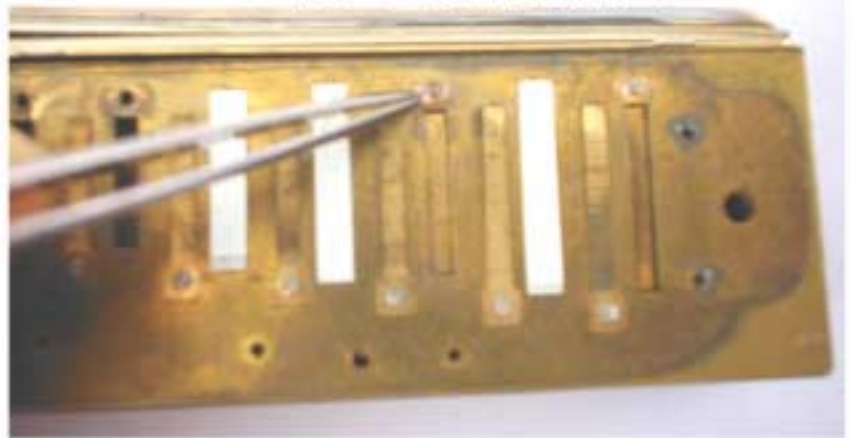
RAKUSAIEN

バルブ交換

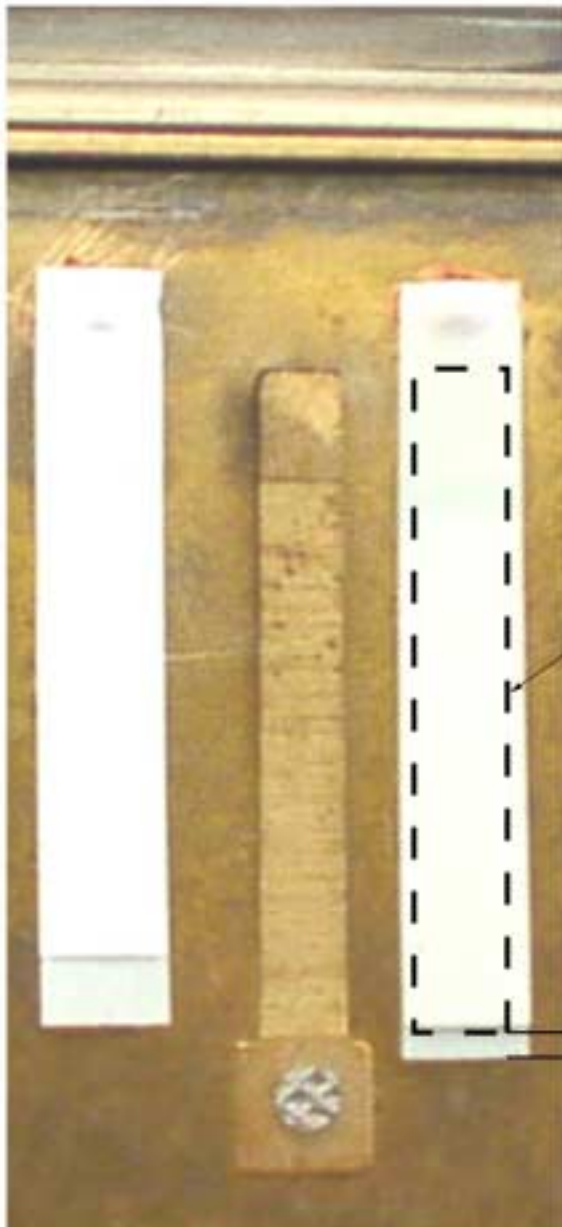
用意するもの



手順1 古いバルブを剥がした後
に残った接着剤を除く



手順3 バルブの凸部分をリベットの
中心に合わせバルブを貼り付ける



スロットとラベルの位置を
写真のように調整する

手順2 糊（接着剤）を爪楊枝の頭に少量載せ、
バルブの凹みに付ける。



糊（接着剤）の量はバルブを貼り付けた時に
スロット内に入りこまなよう注意深く加減する

バネ交換

1. 工具



ばね取り出し用工具

2. 折れたばね

工具でこの部分を
挟み、左または右に
回すようにして
引き上げる



折れた部分の端が
本体に食い込みやすい
ので、十分注意する

3. 交換手順

ばね

ばねを固定している心棒の
細い方の先端が見える
これを押し込む



ばねの外し方
心棒を外してばねを引き抜く

ばねの取り付け方
ばねを穴に入れて、心棒を押し込む

工具は小さいペンチが良いと思います



心棒を引き抜く

ばね



心棒

(注) 本図はプレートが外してありますが
実際は付けたままで行います。

分解法

1. 工具準備
金属ヘラ
金属板 (厚さ0.3~0.5mm位)

いずれも袂の張替え作業用のもの



3. 隙間に金属板を入れてこじ開けるようにしてプレートと本体を引き離す

2. ハーモニカの本体とプレートの間に金属ヘラを入れて、本体とプレートの間に金属板が差し込めるくらいの隙間を作る

本体に傷をつけないよう
注意深く行う

4. 引き離し寸前の状態

本体とプレートを留めていた釘が浮き上がっている



5. 分解後の状態



(注) 本作業は不用ハーモニカで練習してから実施することを強くお勧めします

リード交換 必要工具等

木材
(リードプレートの長さ以上) × 15 × 50

ピンセット

マイナスドライバー

ブレード
(サービスキットにある)

センターポンチ

ピンポンチ

蝶番 (2個)
リードプレート
より厚いもの

金槌

ラジオペンチ

すべてありあわせのもので、
最適化すれば、もっと正確に作業できる

(注) 蝶番をねじで木材に固定しておけば安定して作業できる。

作業手順

リードの取り外し

1. 蝶番を木材の上に置く (下図)

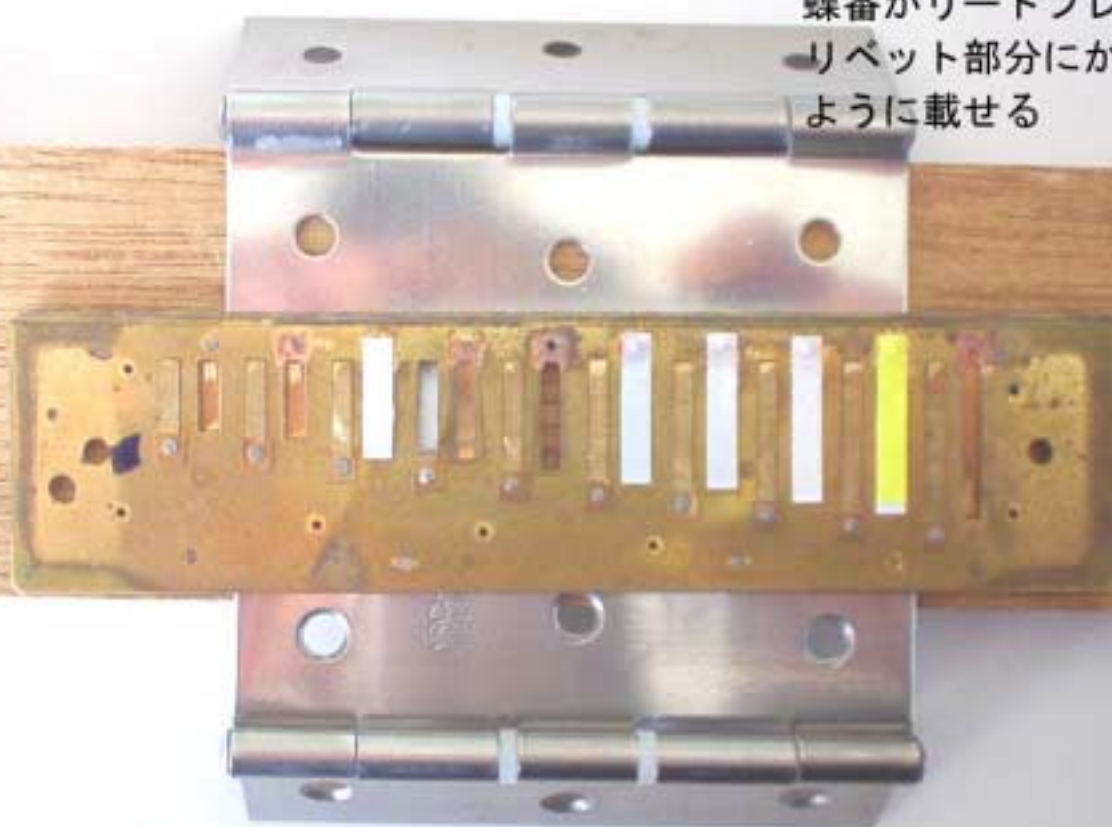


間隔は凡そ 25 mm

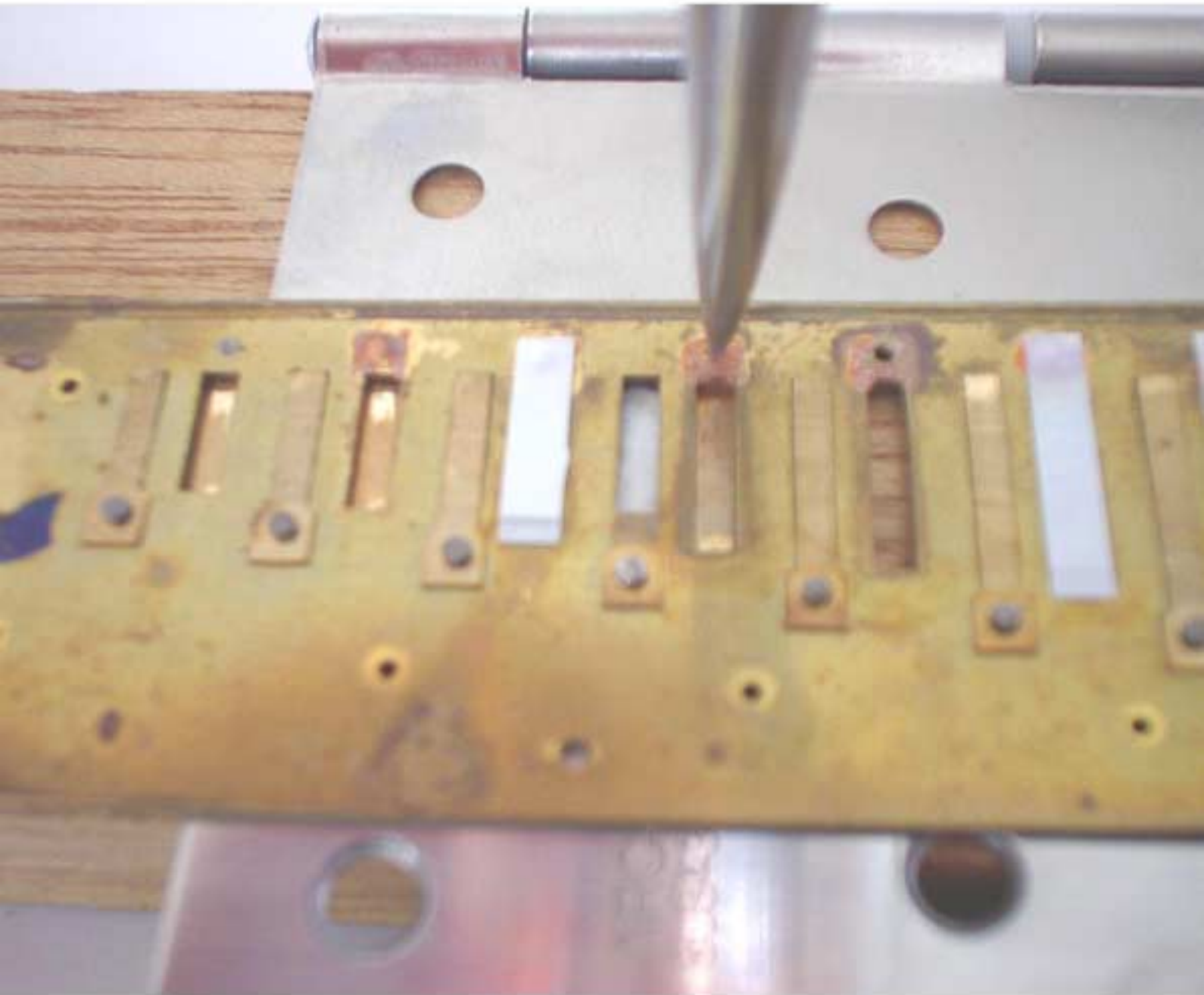


2. この上にリベットの頭が下になるようにしてリードプレートを載せる (下図)

蝶番がリードプレートのリベット部分にかからないように載せる



3. リベットの穴の中心にポンチの先端を慎重に合わせ、センターポンチをリベット穴の上に垂直に当てる。



4. ポンチを金槌で叩く。
叩く力は“弱からず強からず”。
(これは実際に体験して会得するしかありません。)
私の場合は通常2回叩きます。



リードがリベットの頭と共に浮きあげる

5. リードプレートとリードの間にできた隙間に
ドライバーを入れてプレートからリードと共に
リベットを外す



(注) 通常はリベットの頭とリードプレートが離れずに
リベットが外れるが、時には離れてしまい、ドライバーの入る
隙間ができないことがある。
この場合は先端の細いラジオペンチでリベットの頭を挟んで
リベットを取り外してください。

**(注) リードとリベットを外す時に
リードを傷付けたリ変形させたり
しないよう慎重に作業を進める**

リードの取り付け

取り外されたリベット付リード



リードは販売されていないので別の不用のハーモニカから取り外したものを使う。

リベットを慎重にリベット穴に合わせピンポンチでリベットの頭を垂直に叩く。この時当然、リードがリードプレートのスロットの上に平行に横たわるようにしなければならない。



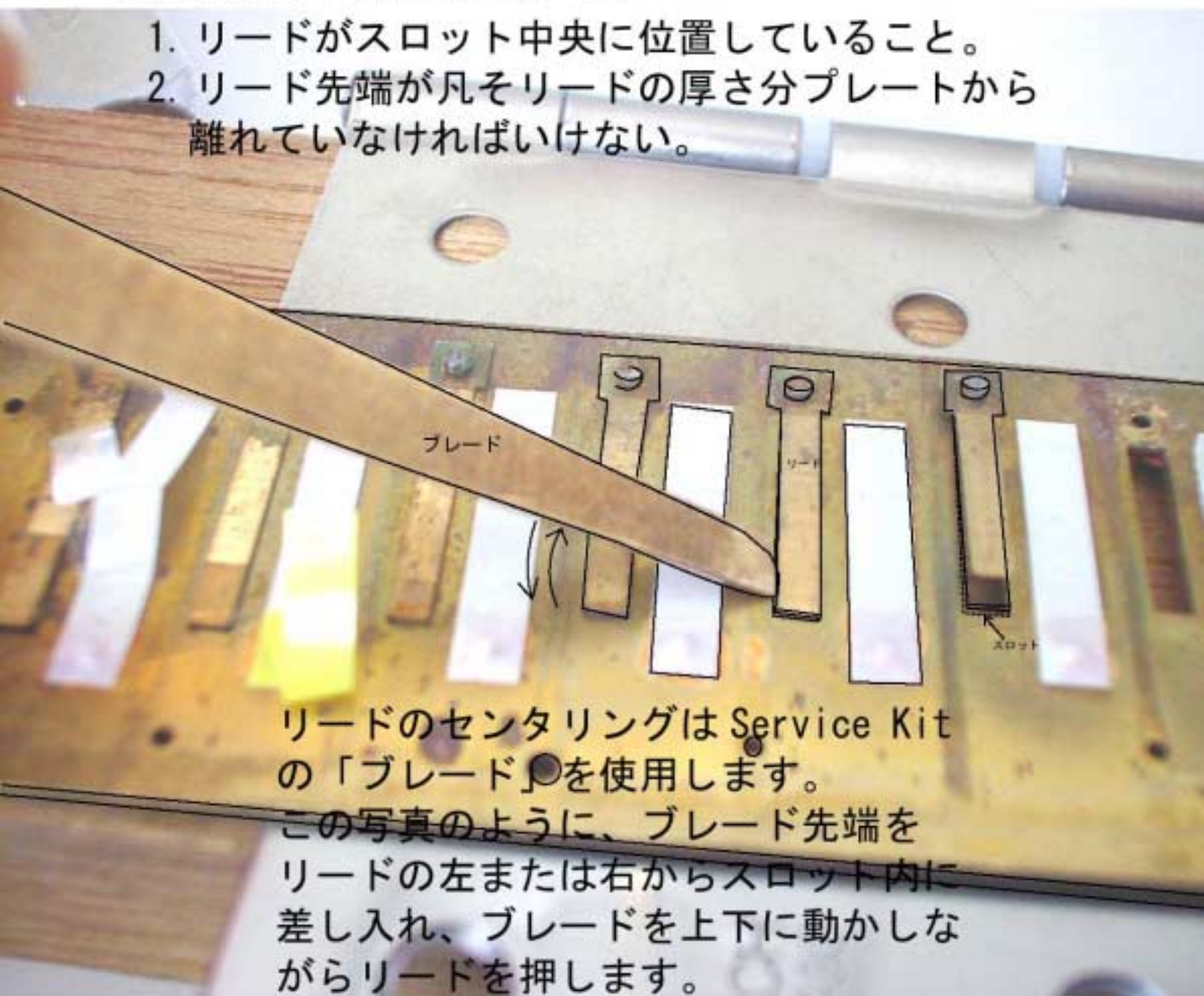
(注) ピンポンチは滑りやすいので、的を外してリード上を叩かないよう十分注意する。

3. リード位置調整

最後に、正しくリードが振動するようにリードがスロットに対して正しい位置になるように調整する。

どこが正しい位置なのかは「Hohner Harmonica Service Kit」に記されている。

1. リードがスロット中央に位置していること。
2. リード先端が凡そリードの厚さ分プレートから離れていなければいけない。



リードのセンタリングは Service Kit の「ブレード」を使用します。

この写真のように、ブレード先端をリードの左または右からスロット内に差し入れ、ブレードを上下に動かしながらリードを押します。

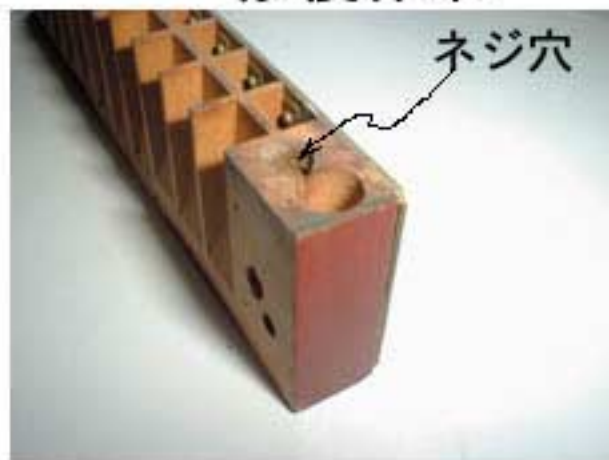
リードがスロット中央に位置しているかどうかを判定するにはリードプレートを光にかざして見ると良く分かります。

徳永先生の修理に関する記事ではリード調整にアジャスタを使用するかドライバーで押す方法が紹介されています。

Chromonica270(260)のネジ穴

修復作業

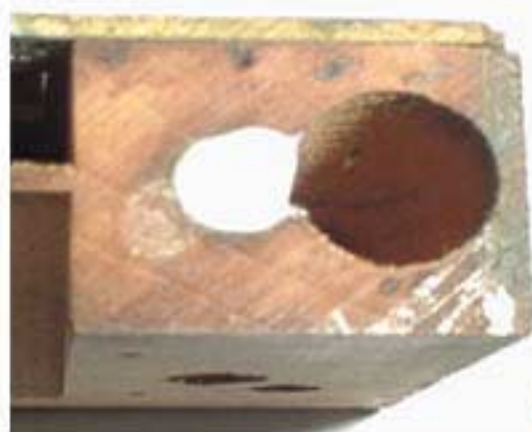
必要なもの：木工用ボンド



このように逆さ置きタイプのものがよい



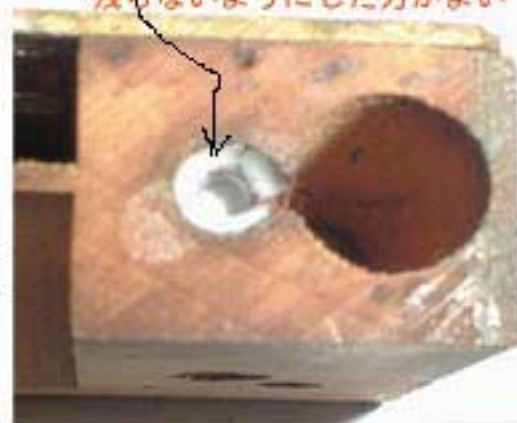
爪楊枝を用意しておく



修復手順

1. ネジ穴に木工用ボンドを流し込む。
穴からはみ出したら、すぐに、ふき取る。

(注) この写真は残っているが、ビニールチューブの当たるこの部分は出来るだけボンドが残らないようにした方がよい



2. ボンドが奥まで行きわたるよう、爪楊枝でボンドを押し込むようにする。ボンドの量は穴の内側を濡らす程度で多すぎないように

口はネジ穴より小さいものがよい



修復例

これはネジ穴とばね穴の隔壁が下まで壊れている場合です。こんなことは滅多にありませんが、このようなものも修復可能です。



3. ボンドが固まると透明色に変わってくるが、固まりだしたら一度、ネジを途中まで入れて穴の形を整えておく。ネジはすぐに取り出し、そのままボンドが固まるまで放置する。(完全に硬化するまで(一昼夜)ぐらい待ったほうが安全でしょう)